

「アジアイノベーションフォーラム」にて招待講演を行いました（2016/12/6-7）

テーマ：国際連携、APRU, マルチハザード
場所：バンコク・タイ

国連人道問題調整事務所（UNOCHA）とアジア災害対応防災ネットワーク（ADRRN）は、12月6-7日の2日間にわたり「アジアイノベーションフォーラム」をバンコクにて開催し、国連機関、NGO、学術、企業などから約100名の災害関係者が参加しました。当研究所から、泉貴子特任准教授（情報管理・社会連携部門）が「防災における学術と実践の連携」と題して講演を行い、またその後1日半にわたっておこなわれたグループディスカッションでファシリテーターを務めました。このフォーラムは、これまでのような典型的な防災対策の枠を超えて、いかに新たな効果的な防災対策が可能となるか、その中で科学技術の役割は何かなどを協議することを目的としており、最終的には、そうした新たなアイデアを生かしたプロジェクトの企画を、グループワークを通して行いました。ドローンや様々なアプリケーションの導入により、情報共有や伝達の方法を工夫すること、また最新の水浄化システムなど、様々なアイデアがだされました。こうしたアイデアをもとに、今後本格的な企画として、NGOを中心として「ヒューマニタリアンイノベーションファンド」というイギリスの財団に申請しつつ、プロジェクトの実施を目指すこととなります。

また、個別に、APRUとそれぞれの機関・セクターがいかに連携を始められるかについても、協議することができました。科学技術の防災への導入が国際的レベルで期待されている中、どのような貢献が学術から必要なのか、また可能なのかをこうしたネットワークやフォーラムを通じて学術と実践側の双方がニーズを知ることが連携の始まりであり、今後の課題でもあります。



泉特任准教授による講演



グループディスカッション

文責：泉貴子（情報管理・社会連携部門）